

平成31年

令和元年度

若草園 事業所職員 児童発達支援自己評価（公表用）

公表:令和2年4月1日

事業所名 箕輪町こども発達支援事業所 若草園

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	4	2	・プレイルームと静的活動ルームとをロッカーなどで分けている。	<b>課題</b> ・障害特性に応じたスペースの個室化が必須。 ・職員の数も多くなってきたがスタッフルームの空間に比べ狭く、非常に衛生的にも職員の心身面でのストレス負荷にもつながっている。 ・施設基準は満たしているが個別性の確保は工夫しても不十分で現状では日程調整、活動等の配慮が必要。 ・医ケア児等の受入れなどに対する環境という点では十分ではない。
	無記入：1					
	②	職員の配置数は適切であるか	3	4	・要医ケア児も通園するため看護師を補助員で配置	<b>課題</b> ・単独通園児や年齢差が広がりがり少人数化、個別対応を考えると現状では不足。 ・単独通の子に1対1で担当するため親子通園の利用者に十分に関われない。 ・職員の役割が不明確でバラバラな業務という印象。 ・単独児を受け入れることにより他の字への支援がどうかといった点では疑問に思うことがある。 ・職員が事務をするスペースが狭く荷物等が置けない。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	4	3	・おもちゃが片づけしやすいようにロッカー、棚シールで片付けるものを写真提示	<b>課題</b> ・視覚刺激に弱い子どもたちがいる中で棚にあるすべてのおもちゃが見えてしまい、遊びが転々としてしまうのでおもちゃの整理、限定化必須。 ・ワンフロアをロッカーで仕切って使用しているためプレイルームとランチルームがそれぞれの空間として活用しにくいときがある。 ・通園児の特性を配慮する必要がある。 ・園を利用する児はどういう児であるかということ
④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	6	1	・衛生面は看護師中心に毎日児が退園後、実施している。年間に数回は職員全体で大型遊具の整理をかねて実施 ・看護師による衛生面の徹底がされている。 ・使用する物品の個別使用。 ・咳、エチケットの指導等実施。 ・当園児の様子に合わせた消毒液による拭き掃除実施。 ・すべてのおもちゃを1週間ですべて拭くように配慮している。	<b>課題</b>	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
業務改善	⑤ 業務改善を進めるための POCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	6	1	・わずかな空き時間にも個々に行っている ・職員で共有する時間を設ける。(PDCA 活用)	課題 ・個々に行ってしまう、職員全体の共通概念になっていないことが多く十分とはいえない。
	⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	6	1	随時、できるところから実施	課題 ・保育環境等を行っているが療育の内容等には足りていないこと多い
	⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	5	2		課題 ・町ホームページにて掲載(年間通し) ・過去の評価は別フォルダにて閲覧可能なようにしてある。
	⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	2	5	本庁職員、保育士等が研修で来るため外部の視線は常に入っている	課題 ・検討中。 ・取り組んで欲しいと同時に業務改善の前に組織のあり方も見直し必要。
	⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	7		・職員に偏りが無いように、専門にこだわらずに機会を確保。 ・自己研鑽にもなり魚無を実施するにも参考になっています。	課題 ・知識取得、自己研鑽的な研修機会が少ないこと、他の施設見学を入れて園運営に生かす。
適切な支援の提供	⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	7		児発管、保育士等が適宜保護者と面談をし、個別支援計画に反映させている	課題 ・面談の結果を全体で共有しているとはいいがたく、計画に反映させていくために一考が必要。 ・計画は作成されているが客観的な分析を行
	⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	7		心理のK式、OTの感覚統合 scale、児発管のアセスメント表利用	課題 ・アセスメントツールを使用しているのか把握していません。
	⑫ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	7			課題 ・職員全体での共有が不十分。 ・計画は立案されているがガイドラインに沿って設定されているかは把握していません。
	⑬ 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	7		・朝会にて週案、月案に反映させている。 ・個別支援計画は職員全体で検討している。	課題 ・個別性を大切にする療育と集団を主とする保育の考えに職員間で共有不十分
	⑭ 活動プログラムの立案をチームで行っているか	6	1		課題 ・児発管、担当保育士中心であり、看護師、機能訓練担当の意見の反映は乏しい

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	⑮ 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	7		・週案で検討 ・短時間であっても全体でどの活動を取り入れ様々なプログラムを組んでいる。	課題 ・個、集団に提供する活動をなんのためにするのかを全員で共有する必要あり。
	⑯ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	7		・短時間であっても全体でどの活動を取り入れ様々なプログラムを組んでいる。	
	⑰ 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	7		・朝礼で確認。 ・朝礼で当日の支援の打合せを行っている。	課題 ・実施はしているが、職員間で共有できているかはまだ曖昧な部分もあり改善必要。
	⑱ 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	7		・その日の振り返りを午睡時間帯に実施している。 ・振り返りをして反省などを次回につなげている。	課題 ・不在になる職員の連絡、報告が徹底されていない。ホワイトボードもあるが活用が不徹底。
	⑲ 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	7			課題 ・記録作成はしているが、改善等については個別に関わりすぎて次、次回計画への反映は乏しい
	⑳ 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	7		・モニタリングは実施している。 ・児発管、看護師が適宜実施。	
関係機関や保護者との連携	㉑ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	5	2		課題 ・通園時間内ということもあり、開催時間の再考が必要。必要な職員の参加ができていない。 ・児に合わせた職種の出席が不十分ではないかと思う。 ・子どもの状況に応じた最もふさわしい者とい
	㉒ 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	6		・ケア児等に関して医療とは連携している。 ・子どもの状況を伝え、話しをするように心掛けている。	課題 ・通園につながると地区担当保健師の訪問が減ってしまうのは残念。
	㉓ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	7		・看護師中心にかかりつけの医療機関とも連携を取っており、必要に応じて診察、訓練にも同行し職員とも情報共有している。 ・医療機関との連携は看護師、保育士共に連絡帳、同行などでとっている。 ・保育に関して必要時に看護より情報提供している。	課題 ・看護師だけでなく、担当保育士も訓練、診察に同行する機会を積極的に出られるようにする工夫が必要。 ・個別の職員が一個人情報を持った後の報告・連絡・相談が不十分。
㉔ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	7		・定期受診日の同席。医療機関、PTOTST、主治医とIC。 ・外来看護師、地域連携室・地域支援室との連携も必要に応じて取れている。		

無記入：1

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	②5 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	7		交流保育、入園予定の園の園長、学校の連携室の職員、教育相談員が来園。入園・学後に訪問あり	
	②6 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	7		同上	
	②7 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	5	2	・積極的に相互の交流研修を実施 ・あゆみの会(上伊那4施設)、こども病院グループ外来に参加。 ・要医ケア児等看護師リーダー研修、コーディネーター研修に参加。	課題 ・町内事業所や近隣の民間事業所との交流研修がお互いの業務を理解する上でも必要
	②8 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	5	2	・保育園併設のために毎日園丁にて交流できる環境にある。交流保育も実施。 ・保育園と併設されているため交流できる点は利点だと思う。	
	②9 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	3	2	・療育等連絡会、重心・要医ケア児等部会に参加。	課題 ・促しがないと参加をしようしない園の受身の態勢は改善は必要(園長の受身の姿勢には改善必要)。 ・要請があれば参加しているが自らという自己研鑽的な機会への参加受身。
	③0 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	7		・個別対応中、登園退園時に個々に実施。 ・課題については以前と比べてどうかという点を前向きな観点で話せるように意識している。 ・健康管理面において日頃と比べ変化があれば状態観察を行い、保護者への説明、注意点を伝え保護者に必要に応じて問診実施。	課題 ・保護者の思いを十分に汲み取ってできているかは甚だ疑問。 ・課題はあるが、もう少しきめ細かい話し合いをする必要があれば良いと思う。 ・十分かと言われるとどうなのかな?と思うところあり。
③1 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか		6	・心理相談の中で個々には実施。	課題 ・エジソンクラブ発行の「ちょこっとチャット」などを使い保護者の話す機会を作る。 ・園として取り組めればよいと思う。	
保護者への説明責任等	③2 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	6		・園長対応。	無記入：1
	③3 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	6			課題 ・説明はしているが、どんな説明が行われているかは把握できていない。 ・やっとはいるが不十分な感否めない。

無記入：2

無記入：1

無記入：1

無記入：1

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	③④ 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する目談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	6		・児発管が定期的にモニタリングを行い、子育ての様子を聞き職員へ伝え支援につなげている。	課題 ・さらに、詳細なスモールステップできるような目標の立て方の必要性あり(職員にも保護者にも自己肯定感を高めるために) ・実施はしているが職員間での情報共有は不十分。 ・全員の子に対して行き届いているか不安。
	③⑤ 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	1	6	・個人的に「スマイル 21」(上伊那ダウン症児親の会)に参加。	課題 ・未実施 → 親支援プログラムとして、年に数回は開催できるような機会を設けていく。 ・児の単独通園機会に合わせて話すことも必要。
	③⑥ 子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	5			課題 ・主観的に決定してしまうこと多く客観的に判断することやアセスメントをきちんと行ったほうが良いと思う。(ときに、行き当たりばったりの計画や対応になりがち)
	③⑦ 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	7		・毎月園だより(あゆみ:園長)、看護だより(看護師)を発行。	課題 ・保育士、外部専門職からの発信も検討 ・あゆみようなクラス便りみたいなものが発行できれば良いのでは。
	③⑧ 個人情報の取扱いに十分注意しているか	7		・鍵付ロッカーにて保管。	
	③⑨ 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	6			課題 ・意識はしているが十分かと言えば足りないことはあると考えるので自己満足せずに進めていきたい ・子どもの混乱時に保育士が数名関わってしまったため他の児、保護者への配慮が掛かってし
	④⑩ 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	3	3	・通園児の弟、妹支援という形で託児ボランティアを依頼(主任児童委員含む)。	
非常時等の対応	④① 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	7		・園として感染対策マニュアルを見直し、作成中。 ・職員間でのシミュレーションの実施。 ・必要時、職員、保護者への予防策を説明。	課題 ・職員通用口と非常口が一緒のために施錠をすることがないため営業時間内はセキュリティの面では不十分。 ・保護者には周知していると思っているが、実際場面としてはどうか。
	④② 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	6	1		課題 ・要医ケア児等への対応について再検討が必要。 ・通園してきている子どもすべてが毎月の避難訓練に参加できていないので配慮や避難
	④③ 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	7		・看護師、児発管中心に実施。	
	④④ 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	5		・町管理栄養士と併設保育園の給食調理員とも連携をとり細心の注意を払っている。	無記入：2

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	④5 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	4	1		<b>課題</b> ・報告・連絡・相談、状況報告書などマニュアルはあるが、実際は対応が後手、後手になっていることが多いので園長中心に報・連・相、管理体制を再度徹底する。 ・ヒヤリハット等、インシデントに対する認識を向上していく必要がある。 ・ヒヤリハットに対する認識をもう少ししっかり持たなくてはいけないと反省している。
	④6 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	6	1	・県主催、圏域主催の研修に毎年1名参加。	
	④7 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	3	2	・身体拘束を行う子が現在いないので組織的に決定していないが、マニュアルはあり、確認できる状態にはなっている。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

公表：令和2年4月1日

事業所名 箕輪町こども発達支援事業所 若草園

保護者等数(登録児童数) 13名 回収数 8名 割合 62%

		チェック項目	はい	どちらとも	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	8					
	②	職員の配置数や専門生は適切であるか	6	2			・年度の後半で利用する児童数が増えるので職員数を増やしても良いと思います。	・貴重な意見をありがとうございました。多くの子どもが通う中で職員が声を掛ける頻度が少ないことなど多くあったかと思えます。次年度は運営体制の充実と見直しを図り、より多くの相談、話しのできる機会を作っていきますのでよろしくお願ひし
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特生に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	7	1				
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	8					
適切な支援の提供	⑤	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	7	1				
	⑥	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	1		1		
	⑦	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	8					
	⑧	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	8					
	⑨	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	4		2	2	・三日町保育園との併設のため孤立することなく園庭で遊ぶだけでも交流がある。 ・特に求めていないので今のままで良いと思います。	・一人遊びから小集団、異年齢集団、大集団の中での遊び、活動を経験する機会は今の現代社会において非常に貴重です。今後も機会あるごとに目的を持って園庭等で園児との交流機会を作っていくようにします。

	チェック項目	はい	どちらとも	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
保護者への説明等	⑩ 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	8					
	⑪ 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	8					
	⑫ 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われているか	7			1		
	⑬ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	7	1			・その都度、相談、報告 することができている。	・今後もタイムリーに保護者の方の心配事や悩みに対応できるように職員一同配慮していきます。
	⑭ 児に関する助言等の支援が行われているか	8					
	⑮ 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	2			記入 忘れ：2	4	
	⑯ 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	5	1		記入 忘れ：2		
	⑰ 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	6			記入忘れ： 2		
	⑱ 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	5				1	
	⑲ 個人情報の取扱いに十分注意されているか	5				1	
非常時等の対	⑳ 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	6					
	㉑ 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	5				1	
満足度	㉒ 子どもは通所を楽しみにしているか	6					
	㉓ 事業所の支援に満足しているか	6					

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。